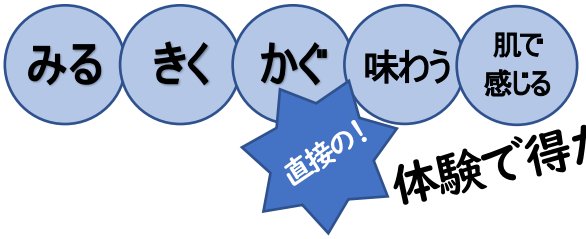
第302号 12月号

笑顔いっぱい、みんなかがやく、きたやまたの子

北山田小だより

令和４年　11月30日

横浜市立北山田小学校
校　長　　滝川　尚美



体験で得た感動は、生きる力につながる

副校長　細井　　歩

「ミシッ、ミシッ、ギッギッギッギッギッギーーーー、ドーーーーーン！」さて、この音は･･･？

11月23日、24日に５年生の子どもたちと道志村宿泊体験学習に行ってきました。「体験学習」です。子どもたちは、２日間の様々な体験からどんなことを学んだのでしょう。

１日目。本物の木材に本物の葉材で飾った木工体験。「『木』のにおいがする！」という子どもの声に「なるほど、これだ」と感じました。それぞれの思いを込め、個性のあるドアプレートを夢中になって仕上げていました。キャンドルファイヤーでは、歌い、踊り、笑い、大いに盛り上がってみんなが一つになる喜びを感じた大切な時間を過ごしました。心に熱く響く素晴らしいキャンドルファイヤーでしたが、雨が降っていなければ、星がまたたく夜空のもと、赤々と燃えるキャンプファイヤーを体験させたかったです。そして２日目。グループ内で協力し樹齢２５年ほどの１本の檜を切り倒した間伐体験、のこぎりで丸太を輪切りにして作ったコースター作り。木を切るという作業は本当に大変で、苦労しながらも楽しんでいたようです。はじめに書いたあの音は･･･そう、森の中に響き渡る、木が倒れた音。リレー方式で一人ずつのこぎりで切っていった後、みんなで力いっぱい綱を引っ張り倒した音です。すごい迫力と達成感で大きな拍手と歓声があがりました。

それから、一緒にお風呂に入ったり、部屋でくつろいだり、友達と隣同士で寝たり、布団やシーツをたたんだり･･･ということも子どもたちにとっては実は貴重な体験です。同じ場にいて同じような体験をしてもきっと子どもたち一人一人が肌で、心で感じて学んだことは違っているのではないかと思います。今回の体験学習の目的の一つに、「集団行動を通して、集団の一員として望ましい人間関係や規則正しい行動を体得する。」とあります。寝食を共にし友達と関わり合う中でこのようなことを体得していることも期待しています。

最近は、インターネットやテレビ等を介しての「間接体験」、シミュレーションや模型等を通じて模擬的に学ぶ「疑似体験」が子どもたちの「体験」の多くを占めているように思います。コロナ禍で一層、実物（人、モノ、こと）に実際に関わっていく「直接体験」が減ってきています。体験活動で得た感動や失敗は問題解決のきっかけになったり感動そのものが直接的に生きていく自信につながったりし、「生きる力」の源になると言われます。道志村からの帰り、バスの車窓から大きな富士山が見えた時、子どもたちから何度も歓声があがり感動していました。本物の富士山が自分の目の前に現れたからでしょう。美しいと思った子、でっかいなあと感じた子、こんなに雪が積もっているんだと驚いた子･･･。その様子にわたし自身がじんときました。

学校でも、本物にふれる４年生の「心の教育バレエの世界」や５年生の「心の教育ふれあいコンサート」、１・２年生の生活科での体験を通した多くの学習、ほかの学年でも様々な体験活動をとりいれながら、子どもたちの学びを深める取組をしています。

もうすぐ冬休みですね。ぜひご家庭や地域でも子どもたちの目が輝くような体験をたくさんできることを願っております。